

東研サーモテック

和歌山に熱処理工場

大阪・寝屋川は設備増強

東研サーモテック（大阪市東住吉区、川寄隆司社長、06・6714・2425）

は、和歌山真橋本市に自動車用部品の熱処理を手がける新工場を建設し、2019年4月に本格稼働させる。用地はすでに取得済みで、5月に着工する。増産を計画する複数の大手部品メーカーの新規受注に対応するもので、既存の寝屋川工場（大阪府寝屋川市）も18年内に設備を増強する。総投資額は約40億円を見込む。

東研サーモテックは、のみで対応しきれない熱処理専門メーカー。と判断し新工場の建設顧客の旺盛な需要に国を決めた。生産拡大に内外の工場増強で対応より売上高は20年度にしてきたが、既存拠点16年度比25%増の30



0億円を見込む。新工場は自動変速機（AT）用部品の熱処理を手がける。工場棟と事務棟で構成し、延べ床面積は合計約1万1000平方

米。同社内工場では3番目の規模で、約1
▲新工場は連続浸炭炉で大量生産する

00人を雇用する。生産性の高い大型ラインを構築し、ロボットなども活用する。

大量の熱処理作業に向く連続浸炭炉、連続ガス軟炉、金型で矯正して焼き戻すプレステンパーなどを導入する。連続浸炭炉は2基でスタート。20年度に4基体制とする。

既存拠点で培った知見を応用し、高効率な

レイアウトを構成する。ワーク（加工対象物）や治具などの搬送はAGV（無人搬送車）を、プレステンパーへの搬出入は多関節ロボットを用いて半自動化する。

一方、寝屋川工場では生産品目の見直しを行うことでスペースを捻出した。空けた場所に連続浸炭炉を1基増設する。新設備は4月

末に設置が完了し、8月に本格稼働する予定。これにより同工場の自動車部品向け熱処理能力は従来比約2割向上する。